

令和元年度 島根県経口摂取支援研修会報告

日 時 令和元年11月17日（日） 9：50～15：00
会 場 東部会場 島根県歯科医師会館
西部会場 島根県歯科医師会館西部会館（TV会議システム中継）
参加人数 98 名
メインテーマ 「他職種連携により地域で予防する誤嚥性肺炎」

座長 一般社団法人 島根県医師会理事 須谷生男

講演 「摂食嚥下障害のリハビリテーションと手術」

総合病院 松江生協病院 耳鼻咽喉科 管理部長 仙田直之先生

摂食嚥下障害の外科的手術には嚥下機能改善手術と誤嚥防止手術があり、嚥下機能改善手術は、咽頭期障害を主とする嚥下障害でリハビリテーションを十分行うも経口摂取にいたらない場合などが適応になる。嚥下のメカニズムとその各相での障害を嚥下造影の動画を交え説明し、それに対応する術式：咽頭弁形成術、声帯内方移動術、喉頭挙上術、輪状咽頭筋切断術、咽頭縫縮術などを紹介した。一方、誤嚥防止手術は、嚥下障害が高度でリハビリや嚥下機能改善手術による改善が期待できない例、誤嚥し肺炎をくり返す例などで、発生機能を失うことを納得している場合に適応となる。喉頭摘出術、声門閉鎖術（鹿野式）、声門下閉鎖術（気管弁法）、喉頭気管分離術など。安易な延命処置につながらないよう多職種カンファレンスも必要。気管切開と違い、口、鼻から呼吸はできないため、ここを塞ぐと窒息する。

講演 「高齢者肺炎の特徴と対策」

島根大学医学部内科学講座 呼吸器・臨床腫瘍学教授 磯部 威先生

死亡原因の上位15死因のうち肺炎（5位）、誤嚥性肺炎（7位）、間質性肺炎（12位）、慢性閉塞性肺疾患（13位）の4疾患が入っている。高齢者においては肺炎の罹患をいかに予防するかが重要。市中肺炎に加え、医療・介護関連肺炎が増えてきている。高齢者肺炎では、生理機能の衰えから、咳・痰・発熱などの症状を欠き、食欲がない、元気がないなど肺炎を疑わない症状が多い。併存症のため重症化しやすい、代謝・排泄機能低下のため副作用が出やすく、耐性菌が多い。一方では誤嚥による肺炎も重要。食事・飲水時の「ムセ」などの顕性誤嚥と、咳反射の低下などによる不顕性誤嚥とがある。成人肺炎診療ガイドライン2017では肺炎予防においては口腔ケアが推奨され、口腔ケアの介入により肺炎、発熱、死亡率の低下が認められた。肺炎の原因菌は圧倒的に肺炎球菌が多い。侵襲性肺炎球菌性肺炎の予後は極めて悪い。肺炎球菌は莢膜を有し、好中球の貪食を受けにくい。肺炎球菌性肺炎はワクチンによって大幅に死亡者数が減少可能な疾患。ワクチンには結合型ワクチンPCV13と多糖体ワクチンPPSV23の2種類があり、PPSV23は公費助成がある。

座長 一般社団法人 鳥根県歯科医師会 理事 井上幸夫

口演発表 「誤嚥性肺炎予防のためにできること」

総合病院 松江生協病院 リハビリテーション科

言語聴覚士 福間 丈史 先生

顕性誤嚥に対しては摂食嚥下リハビリテーションが、不顕性誤嚥には口腔ケアが有効。誤嚥させない食事形態の選択、食事介助方法も重要。STとしては評価、訓練、介助方法の伝達出来るよう多職種と連携していきたい。

口演発表 「ハイジチームアドバンスによる口腔ケア地域普及事業

～誤嚥性肺炎予防のための「破壊と回収」～

医療法人社団創健会 松江記念病院 歯科口腔外科 内藤 晋一 先生

歯科医師・歯科衛生士によるスタディグループ「ハイジチームアドバンス」を立ち上げ、「破壊と回収」をテーマに活動している。昨年はマニュアルを作成し、看護師、介護福祉士、歯科衛生士など職種別に伝達講習、口腔ケア実習を行った。今年度は施設に出向き、口腔ケア実技研修会として講話と実習を開始した。

口演発表 「誤嚥性肺炎予防マニュアル ～松江市三師会～」

総合病院 松江生協病院 耳鼻咽喉科 管理部長 仙田 直之 先生

松江市医師会は松江市の歯科医師会、薬剤師会と協力し、松江市三師会として家族・施設職員向けの誤嚥性肺炎予防マニュアル作成配布することにした。内容は、1．緒言、2．危険性を見つけるには、3．誤嚥性肺炎の予防と対策（内科の立場から、歯科の立場から、薬剤師の立場から）、4．治療、5．誤嚥性肺炎が疑われた時の対応の5部構成。

パネルディスカッション

コーディネーター

一般社団法人 鳥根県歯科医師会 理事 井上 幸夫

パネリスト

鳥根大学医学部内科学講座 呼吸器・臨床腫瘍学教授 磯部 威 先生

総合病院 松江生協病院 耳鼻咽喉科 管理部長 仙田 直之 先生

医療法人社団創健会 松江記念病院 歯科口腔外科 内藤 晋一 先生

総合病院 松江生協病院 リハビリテーション科 言語聴覚士 福間 丈史 先生

(鳥根県医師会 理事 須谷生男)